

# ほいく・あーと・ふえすた 造形作品展&こどものためのアートワークショップ

学科・専攻  
関西女子短期大学  
保育学科  
担当教員  
保育学科全教員



連携先

関西女子短期大学  
保育学科



## プログラム内容

保育学科では、学生が子どものことを学ぶための仕掛けとして、子どもとふれ合う機会を創っています。その仕掛けの1つ“ほいく・あーと・ふえすた”では、授業で制作した作品展示の会場に、子どもたちがアートを楽しむコーナーを設けます。学生主体で、企画、材料等の事前準備、当日の受付や誘導等の係り、ワークショップでの子どもたちへの指導・援助やお話会等を行います。学生たちは、授業で習得した知識や技能を活かして、附属幼稚園の園児さんや地域の様々な年齢の子どもと関わり、実感をもって子どもへの理解を深めていきます。

## 成果・考察

2024年11月16日(土)、保育学科の1年生51名と教職員11名で、子どもたちやそのご家族をお迎えしました。会場には、60組99名の子どもたちがやってきて、作ったり、描いたり、お話を聞いたり、作品を見たり、の楽しい時間を過ごしました。学生にとっては、授業での学びを活かして子どもと関わることに挑戦し、子どもや保育について理解を深める機会になりました。また、保護者の方と直接お話をさせていただき、子どもを大切に想う親御さんの気持ちにふれられたようです。

今後、学生が学ぶ機会でもある“ほいく・あーと・ふえすた”を継続させて、玉手山学園で附属幼稚園や地域の子どもたちがアートを楽しむ活動を重ねていきたいと考えています。



学生たちの作品



会場には、子どもたちや学生の笑顔があふれていました。



関西女子短期大学  
保育学科  
宇津木七実 教授

“ほいく・あーと・ふえすた”は、保育を目指す学生たちが、アートを介して子どもたちから学ばせてもらう場でもあります。どんな絵を描くのか？のりやはさみを使う時にどんなことに注意した方がいいか？どんな言葉かけをすると喜ぶか？等々、子どもたちの笑顔や困った姿から、多くのことを学ぶことができます。

また開催するにあたり、ゼミ活動として仲間と協力して企画準備を行うことで、学生の主体性やコミュニケーション力を養うことができます。

子どもたちの笑顔や、保護者の方からの「ありがとう」の言葉が、保育者のたまごの学生たちを励ましてくれます。保育学科一同、この活動ができることに感謝しています。



関西女子短期大学  
保育学科1年生  
本多来望さん 庄山月菜さん  
(2025、1月現在)

私は、「ぼうが いっぼん」の手遊びと「そらまめくんのベッド」の絵本の読み聞かせをしました。自分が笑顔で手遊びを楽しむことで、子どもも緊張が和らぐこと、子どもの表情の変化からどの部分に興味があるかを知ることの大切さを学びました。子どもや保護者の方のたくさんの笑顔を見ることができてとても嬉しかったです。(庄山)

私はほいく・あーと・ふえすたでクリスマスオーナメントの雪だるま作りを行いました。子どもたちが一生懸命作っている姿がとても印象的でした。オリジナルの可愛い雪だるまができて、喜んで貰えたのが嬉しかったです。(本多)